

令和7年度第2回 小金井ボランティア・市民活動センター
運営委員会 議事録

1. 日 時： 令和7年12月16日 午後6時30分～午後8時6分
2. 場 所： 社会福祉協議会2階会議室
3. 出席者： 運営委員（10名）
山路 憲夫 委員長 川畑 美和子 副委員長
根本 礼太 濱松 俊彦 森田 真希 榎本 朝美
益田 智史 加藤 弘子 尾崎 康子 松嶋 有香
事務局
中谷 行男 常務理事 石塚 勝敏 事務局長
小早川 良信 地域福祉係長 久保田 朱里 主事
八下田 友恵 主事
市民協働支援センター準備室
北脇 理恵 市民協働推進員

傍聴人 なし

4. 配布資料：

- 1) 令和7年度小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会（第2回）次第
- 2) 小金井ボランティア・市民活動センター 令和7年度事業進捗状況
- 3) 小金井市民協働支援センター準備室の活動状況
(令和7年4月～令和7年11月)
- 4) 令和8年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画（案）
- 5) ぼらんていあこがねい令和7年10月号、11月号、12月号
- 6) 令和7年度協働講演会 聞いて！聞かせて！その取り組みの始まりと未来
- 7) 市民社会をつくる ボランティアフォーラム TOKYO2026
- 8) 介護者支援でつながろう！令和7年度 家族介護を考えるつどい

5. 議 題：

- 1) 令和7年度事業の進捗状況について
- 2) 市民協働支援センター準備室の活動状況等について
- 3) 令和8年度事業計画（案）について
- 4) その他

6. 議 事：

<開会>

山路委員長（以下、委員長）は、令和7年度第2回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会の開会を告げた。事務局は永並委員の退任を報告し、新任の尾崎委員を紹介した。また、傍聴人の有無を確認後、議題を確認した。

委員長

本日はご多忙の中、お寒い中、お集まりいただきましてありがとうございます。令和7年度第2回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会を開かせていただきます。それでは会議を進めます。

本日の議題は次第の通りであります。一つは令和7年度事業の進捗状況について、二つ目が市民協働支援センター準備室の活動状況等について、三つ目が令和7年度事業計画案について、その他、以上の議題を審議したいと思います。

会議は公開とし傍聴を認めますのでよろしくお願ひします。傍聴の方、どなたかいらっしゃいますか？

事務局

いえ、いらっしゃいません。

委員長

はい。それではまず議題に入る前に、事務局より連絡事項についてお願いいたします。

事務局

はい、事務局の久保田です。まず議題に入らせていただく前に、一点だけ連絡事項を入れさせていただければと思います。令和7年の11月に小金井市民生委員児童委員協議会さんから選出していただいておりました永並委員が民生委員を退任されたため、それに伴いましてこちらの運営委員の方も退任されました。そして新たに本日第2回の運営委員会より小金井市民生委員児童委員協議会より尾崎委員が就任されました。それでは尾崎さん、一言だけご挨拶いただいてもよろしいでしょうか。

尾崎委員

はい、みなさん、こんばんは。小金井市民生委員児童委員協議会の尾崎と申します。担当地区は小金井の中央線より北の方の北部地区の会長をしております。よろしくお願ひいたします。

事務局

以上です。

議題1 令和7年度事業の進捗状況について

委員長は、議題1 令和7年度事業の進捗状況について、事務局に説明を求めた。

委員長

はい。先ほど令和7年度事業計画案と申しあげましたが令和8年度の間違いですね。事業計画案ということで審議のひとつにさせていただきます。それでは議題1から進めていきます。令和7年度事業の進捗状況について事務局よりお願いいたします。

事務局

はい、事務局です。進捗状況の確認をさせていただく前に、資料を何点か配らせていただいていますので確認をさせていただきたいと思います。まず事前にメールで配らせていただいて、本日紙でご用意させていただいた、こちらの小金井ボランティア市民活動センターの運営委員会の次第が1点、こちらの「令和7年度 協働講演会」、こちらのチラシが1点、東京ボランティア・市民活動センターさんからご提供いただいたこちらの「ボランタリーフォーラム」のチラシが1点、こちら東京ボランティア・市民活動センターさんからいただいている「介護者支援でつながろう！ 令和7年度 家族介護を考えるつどい」、こちらのチラシが1点。広報誌として「ぼらんていあこがねい」を10月号と11月号と12月号と3点用意させていただいております。最後にホッチキス止めのこちら、「ボランティア相談報告 令和7年度」と書かれたこちらの資料が1点。皆様お揃いでしょうか。こちらの「ボランティア相談報告」なんですけれども、個人情報がかかっている関係で後ほど最後に回収させていただきますのでよろしくごお願いいたします。では改めて令和7年度小金井ボランティア・市民活動センターの事業進捗状況についてご説明させていただきます。後ろのスライドを閲覧いただければと思いますので、よろしくごお願いいたします。

まず初めに夏のボランティア体験の方からご説明させていただきます。

事務局

事務局、八下田です。夏のボランティア体験についてご説明させていただきます。前回の運営委員会ではガイダンス実施のところまでご案内させていただ

いておりました。6月20日金曜日夕方と、21日土曜日午前午後の2回、事前ガイダンスを実施いたしました。受け入れ団体は34の市内の団体さんに手を挙げていただいております。昨年度は27団体でしたので昨年度よりも受け入れ団体さん増えております。大変感謝申し上げます。子どもたちの夏休みの7月19日から8月24日を体験期間に設定いたしました。参加者は88名、延べ284名の、大人も子どもも参加いただいております。体験後の報告会というものを4、5年コロナになってから実施していなかったんですが、久しぶりに報告会を実施いたしました。8月26日、体験期間が終わった後、中学生は夏休みの一番最後の日だったのですが、社協の2階に来て皆さんで報告会しませんかと呼びかけたところ、参加者11名と、受け入れしてくださった5つの団体さん・施設さんが来てくださいました。参加者と受け入れ団体さんでグループを作ってグループワークをしました。画用紙を四つ折りにして、夏ボラ行く前の気持ちと行った後の気持ち、夏のボランティア体験を漢字一文字で表したら？というワークをしました。施設の方々からは、子どもたちの感じたことを直接聞けてよかったという感想をいただいております。また来年も報告会ぜひ実施したいと思っております。

次に夏のお便りボラの様子です。自宅でできるボランティアということで、例年実施しております。集まった残暑見舞葉書を市内のお一人暮らしの高齢者の方にお送りさせていただきました。お礼の葉書もいただきまして、送り先の分かっている方には送付しております。

夏のボランティア体験の実際の活動時に、いくつか私の方で伺わせていただいて、ボランティアさんがどのように活動しているか、施設さんの方でどのように受け入れしてくださっているか拝見させていただきました。フラワー工房さくらさん、しんあいのぞみ保育園さんの様子をスライドでご確認ください。ぬく井の杜さんではお祭りの様子が伺えるかと思いますが、ボランティアさんも受け入れ施設さんも大変皆さん喜んでいただいて、利用者の方たちもボランティアの受け入れを快く受けてくださって大変感謝しております。

ボランティアの皆さんからいただいた感想文で例年通り文集を作りまして、書いていただいたボランティアさんには送付しております。受け入れ施設の皆さんにもお送りしております。

夏のボランティア体験につきましては、報告以上になります。

事務局

次はディスレクシア啓発事業の方に移らせていただきたいと思います。前回の第1回の委員会のところでも少し触れさせてもらったのですが、令和7年の7月31日に「ディスレクシア啓発講座 読み書きの苦手な子どもたち」とい

うタイトルで講座を実施いたしました。当日、定員35名のところが定員を超えるお申し込みをいただきまして、オンライン配信の方も行って、多くの方にご参加いただきました。読み書きに困難を抱える子どもさんたちがどんな場面でつまづきやすいのか、そして、周りの大人たちがどのようにその障害を理解して支援していけるのかというところについて事例を交えてお話をさせていただきました。読み書きの苦手さは外から気付きにくいと、子ども自身も言葉にしづらいというところで、静かな困りごととして捉えられがちだというところで、だからこそ支援者の方や教員の方々をはじめとした周囲の方の理解が重要であるというところを改めて感じていただけたのかなという風に思っております。またこの講座が始まった経緯なんですけれども、とある保護者の方から高校入試で読み上げのボランティアをしてほしいと、そのボランティアさんいませんかという相談があったところから始まりまして、その読み書きに困難を抱える子どもたちの状況を知って啓発講座を開催するというところに必要性を感じて、今年で4年ですね、4回啓発講座を開催して参りました。1年目の講座では、ディスレクシアの基本的なことを学んでですね、2年目は実際にディスレクシアの事例などを交えて対応例などを講座の中で学びました。その講座の中でですね、当事者の親御さんたちが悩みを共有する場がほとんどなく、かなり孤独な思いを抱えているというところに気付かしまして、それで、その後1年かけて情報交換を行う当事者同士のピアサロンのような場を作って2年目が終わったというところなんです。3年目、4年目がその支援者に向けてディスレクシアの支援者に向けて講座を行ってより実践的な内容を講座の中でお伝えして、ディスレクシアの理解や対応の幅を広げていただく機会になっておりました。どの年も定員以上の申し込みをいただいて、また当事者の親の団体の連携も深まって、教員の方々も講座に参加していただいて、障害の理解が着実に広がっていったように感じております。このようにですね4年間、ディスレクシア講座を続けているのですが、今年で一旦講座は終了させていただきます。別の団体さんからもこの講座からの団体も立ち上がって、支援者の理解も広がったところで一区切りさせていただきます。社協といたしましては、これからは中間支援をする立場から今後も皆さんとの繋がりを大切にして支えていきたいと考えております。

来年はこちらのディスレクシアの講座に代わりまして、発達障害についての啓発講座を予定しております。細かいところは令和8年度の事業計画案のところで詳しくお話しさせていただきます。ディスレクシア啓発事業は以上になります。

次に今年から再開しましたボランティアの入門講座を令和7年度の8月29日に開催させていただきました。実際にボランティアをやりたいけど何をや

ったらいいかわからない、ボランティアに関心のある方、これから活動を始めようという方を対象にした講座を開催いたしまして、参加者は4人でしたが、ボランティアの登録をしていただきまして、社協で行うイベントや、社協外の市内で開催されるイベントのお手伝いなどをしていただくボランティアさんとして登録いただいて、活動に繋げました。来年度からは年4回実施して、3カ月に1回開催していきたいと思っております。ボランティア入門講座に関しては以上になります。

事務局

次に療法的音楽ボランティア養成講座についてご報告いたします。開催日は9月、10月にわたりまして全4回の開催をいたしました。20名定員で19名の申し込みがあり、参加者19名、4回通して来ていただいております。こちらの講座は、音楽ボランティアを養成して市内の高齢者施設で実演に向けて頑張ろうというところまで設定しておりましたので、4回の講座が終わって、勉強だけでなく実際に高齢者施設でやってみたいという方を募りまして、追加練習も実施しました。10月27日、11月7日に追加練習、希望者ののみしました。11名の方が残って追加練習をしました。11名のうち5名と6名に分かれて、本町5丁目にありますうてなグループホームで実演をさせていただいたところですが、2グループが実演に向けて練習と書いてありますが、昨日、2グループ目も実際にご披露させていただいて本番を終えたところですが、今後の活動継続に向けて2グループでまた次の施設に行ってみたいと気持ちが盛り上がったところですので、社協として応援していきたいと思っております。スライドが養成講座の様子です。講師は、昨年引き続き世田谷の方からお越しいただいた奥山京子先生をお願いいたしました。奥山先生は、高齢者向けの音楽療法も得意分野ですが、障害者向けの音楽療法もご専門とされていますので、また来年以降、どのような対象向けの養成講座をするか、先生と検討していきたいと思っております。療法的音楽ボランティア養成講座のご報告、以上になります。

事務局

では続きまして、こがねい福祉マルシェの方に移らせていただきたいと思います。こちら11月29日の土曜日にですね、社会福祉協議会の駐車場を会場としてこがねい福祉マルシェを開催いたしました。参加団体は10団体で、福祉事業所や地域団体の皆様にご参加いただきました。また委員の皆様に関しまして、お忙しい中ご来場いただきまして誠にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。例年、物販を通して団体さん同士や地域住民の

方々が交流する機会を作れたらいいなという思いで開催しております。福祉や市民活動への理解を深めるとともに、地域福祉活動の活性化につなげることを目的としております。当日は天候にも恵まれまして、トラブルもなく無事に開催することができました。参加団体の方からのアンケートから「来場者が多くて賑やかだった」「最後までお客さんが途切れなかった」「自身の団体の活動を知ってもらえた」「利用者さんが笑顔で楽しんでおられた」「年々地域に根ざしたイベントになってきていると感じた」という感想をいただきました。過去3回本イベントを実施しているのですが、最も多い来場者数をいただきまして、マルシェが地域にだんだん定着しているなという実感が湧いております。また当日、小金井の jcom さんに取材に来ていただきまして、jcom の「地元トピックス」というコーナーにて12月の6日から12日まで放送していただきました。来年もこちらの事業を引き続き良い形で盛り上げていければと思っております。こがねい福祉マルシェに関しては以上になります。

事務局

次に団体交流会についてご報告させていただきます。9月27日土曜日に3年目となる団体交流会を開催いたしました。副題としまして「自団体とは違う活動あれこれ」と副題を設けました。活動団体の皆さん、日頃ご自分たちの活動で忙しく、ほかの団体の活動をじっくり聞く機会がなかなかありません。また日常的な接点も少なく、交流の場を作るのが難しいという声も聞かれます。そこで私たち社協の方で団体交流会を開催し、皆さんに集まっていただいて情報交換をしながら、自身の団体の活動のヒントをもらい活性化に繋げる場となればいいなと思い、開催をいたしました。当日は、参加者による自分の団体紹介の後、2つの団体さんをゲストとしてお招きし、ポラリスさん、カラフルさんをゲストとしてお招きし、お話を聞かせていただきました。後半の質問タイムでは、参加者から「ネガティブな相談や意見に対して団体としてどのように対応していますか？」という質問が出ました。多くの団体に共通する課題ということもあり、自分たちならどうするかを考えるきっかけになっている様子でした。全体での自己紹介では、それぞれご自身の活動の思いが強く伝わってくる熱のこもった内容が多く見られました。聞いている方たちもメモを取りながら真剣に聞いており、後半は席を立ってのフリータイムで大変盛り上がりました。席を立って移動し、名刺交換をしたり、先ほどの話の続きを聞かせてくださいというような様子でした。終了後には団体交流がきっかけで次の新しい活動に繋がりましたというお声もいただきました。また、幅広い団体にお声かけして参加いただいたので、昔からある団体に偏らず市内でできた新しい団体さんと知り合う場となったという声もいただき、好評だったと感じております。

今後もこのような場を提供し団体同士の繋がりや活動の広がりを支えていけたらと考えております。団体交流会についての報告は以上になります。

続きまして、教育機関等への協力と連携についてご報告させていただきます。市内の小中学校の方からボランティアセンターにご依頼がありまして、福祉教育の一部を協力いただけないかというご依頼が、南中と四小と緑小からありましたのでご報告させていただきます。

9月18日、19日で南中から車椅子体験をしたいということで、車椅子の貸出をしました。南中の先生方の方で七福神めぐりの冊子を作成し、七福の福が福祉の福にかけているのですが、先生たちですごく素敵なプログラムを考えていらっしやいました。その中の車椅子を体験しようというプログラムの部分をご協力をさせていただきました。また、視力障害者の方の講話を聞きたいというご依頼もありましたので、市内の障害者団体の方をご案内して講話を実施いたしました。

2つ目ですが、9月後半、四小からご依頼がありました。車椅子体験、何かご協力いただけませんかということで、車椅子ダンサーでオリンピック・パラリンピックの開会でダンスをされた天方真帆さんにお声掛けをしました。当日は天方さんの講話と、ダンスを披露していただきました。右下の写真ですが、真真中で天方さんが踊っていて、子どもたちが見ている様子になります。クラシック音楽のあと、音楽が急に切り替わって、子どもたちの好きな Mrs Green Apple に切り替わって、「みんなで踊ろう」と天方さんが子ども達に声をかけ、子どもたちも思い思いに踊り、天方さんが子どもを膝の上に乗せてクルクル回ったりと、すごく楽しい時間でした。障害があるから、車椅子があるから不自由している、家から出れない、楽しいことがないというような貧しい福祉感でないことを伝えられたと思います。先生からも大変好評いただいて、良い授業であったと感じております。

最後ですが、緑小からも10月にご依頼がありまして、車椅子体験を実施しています。こちら緑小の先生の方でプログラムを組まれていましたので、お貸し出しというところで終わってます。

現在もう1件、一中からも福祉教育のご依頼をいただいております。中学生ですので色々な障害の人たちが地域でどう暮らしてるかとか、見えない障害、たとえば精神障害の人についての何か講話ができればよいなと思って、企画中です。

教育機関との協力と連携については報告、以上になります。

事務局

続きまして、災害ボランティアセンターの運営に関する訓練及び研修につい

てご説明させていただきます。例年通り11月の頭に市の総合防災訓練にボランティアセンター設置訓練として参加させていただきました。実際に写真の訓練の様子、①というところが実際ブースの様子になっておりまして、参加者の方に実際に災害ボランティアセンターが立ち上がった時にどういった動きをするのかというところをご説明させていただきながら、また私が令和6年3月に能登半島地震の際に派遣させていただいた内灘町の災害ボランティアセンターの写真なんかも展示させていただきながら、「実際に災害が起こったらこういうセンターが立ち上がるんですよ」というのを参加者の皆様にご説明させていただきました。

次に災害時のネットワークの形成に移りたいと思います。本年度も市内の様々な防災イベントに参加させていただきましたので、そちらも説明させていただきます。

まず9月21日、日曜日に小金井・府中ハウジングステージにて、住宅展示場ですね、車椅子体験を実施させていただきました。その様子がこちらになりまして、実際にボランティアさんや実習生の方にもご協力いただいて、参加者の方に福祉のお仕事体験というところで車椅子体験を実施させていただきました。

そして令和7年10月26日、日曜日にですね、梶野公園にて梶野公園まつりに参加して、こちらも車椅子体験を予定していたんですが、雨天中止となっております。

その次に令和7年11月15日、土曜日に町会の松風会さん、貫井北町の2丁目の地域において防災の街歩きに参加させていただくというような形でご協力をさせていただきました。当日は貫井北町の2丁目付近を約30分程街歩きして、その後、防災マップを作成しました。

最後に12月6日、土曜日に小金井公園にて防災フェスタ2025に車椅子体験と災害・ボランティアセンターの展示としてご協力をさせていただきました。こちらもボランティアさんにもお手伝いいただいて、こちらの写真がブースの様子になっているのですが、来場者約250名の方が車椅子の体験をしていただいて、理解を深めていただけたのかなというふうに思っております。

長くなりましたが報告の方は以上になります。今後の予定といたしまして、令和7年度、令和7年12月16日、22日、来年の1月6日と20日に精神保健福祉ボランティアの養成講座を開催予定です。来年の3月にも若者支援講座の開催を予定しております。同じく、3月に災害ボランティアミーティングを開催する予定です。

ボランティアセンターの令和7年度の進捗に関しましては以上になります。

委員長

はい、どうも。色々本当に多岐にわたる活動を展開されておられて、ご苦労さんでございました。只今、令和7年度事業の進捗状況について報告いただきましたが、何かご質問ご意見があればいただきたいと思います。いかがでございましょうか？はい、どうぞ。

竹村委員

委員の竹村です。ちょっと遅刻してすみませんでした。まず、ご丁寧な報告ありがとうございます。色々イメージも湧きましたのでありがとうございます。その上でちょっと2点質問なんですけれども、さまざまな講座とか、すごくニーズがあるのが分かって、参加者の方とか、参加団体の方も非常に多かったというところがあった中で、ボランティア入門講座に関しては、多分参加者が4名というところで、皆さん、でも、ボランティア登録につながったりと、非常に有効的なことだったのかなと思うんですが、来年度はまた4回開催するっていうことで、今年度のこの4名だったということ踏まえて、来年度に向けて少しどういった工夫をされていくのかということ、何か今お考えのことがあればお聞きしたいなというのが一点です。

あともう一点が、今、私も仕事で労務管理とかする立場になってしまったので、先ほど委員長からもご苦労様ですとお話あったんですけど、本当にこれだけ沢山のことを企画したりとか運営している中で、皆さんのニーズに対してのキャパとか勤務どうなってるのかなっていうのをちょっと率直に思うぐらい色々なことをされてるなっていう反面、マンパワー的にどうなのかなっていうところも、ちょっと実際のところどんな感じなのかなというところをちょっとお伺いできればと思ってご質問させていただきました。以上です。

事務局

1点目のボランティアの入門講座に関してですが、こちらの講座が、通常の講座であれば大体2時間ぐらいの講座を、2時間位で考えているんですけども、こちら30分程度で、よく窓口に何かしたいけどどうすればいいか分からないというような相談が多々あるので、そういった方々を拾えたらいいなという思いで始めた講座です。来年は4回開催する予定です。

委員長

竹村委員よりマンパワーの事についてご質問がありました事務局から返答ありますか？

小早川係長

担当の二人が協力しあって事業を推進しているので、やっていける状況です。私がもう少し関われば担当も負担が減ると認識しています。来年度からは自分もさらに関わっていけるように頑張りたいと思います。お気遣いいただきありがとうございます。

委員長

よろしいでしょうか。

竹村委員

先ほどのことで入門講座のこととか書いてあって、そうなんだって分かったんですけど、多分、チラシとか広報のところにおいても、多分、そういった何やったらいいか分からない人がこの30分の講座の中で何を聞けるのかとかが明確だと多分より刺さる感じなんだろうなっていうのがありましたので、そのあたりの広報の仕方とかは多分工夫の余地があるんじゃないかなってことを感じさせていただきました。

あと後半の部分に関しては、僕もなんかやっぱり個人の頑張りに頼っていくと持続性っていうことを考えた時になかなか難しかったりとか、やっぱり本当にこれだけ素晴らしいことをしている中では、多分、社協さんの経営的なこともそうだと思うんですけど、例えば、それだけやっててもっと効果があるのであれば、人をつけていくってことも含めて応えていくべきことなんじゃないかなってというところもありますので、お互い体壊さない、無理しない程度っていうところもちろん大事ですし、必要なことであればそこをどういう風に改善していくのか、そういったことも合わせて考えていくっていうのが、何となくこれからより大事になるんじゃないかなってことを感じた次第です。はい、以上です。

委員長

それに関連しても結構ですし、ほかの件でも結構ですが、いかがでございますでしょうか？

私の方から一点。ボランティア入門講座の話は分かりましたけども、そのボランティアの方々に入門講座受けた後、まあさまざまなボランティアに参加されてると思うんですが、フォローアップっていうかね、例えばステップアップ講座のような、そういう研修をさらに引き続いて社協としてやっておられるのか、あるいはこれからやっていくつもりがあるのかどうか、その点ちょっと伺わせてください。

事務局

今年、この入門講座に参加して下さった4名のうちのお一人は、先ほどの12月6日の小金井公園の防災フェスタのボランティアに実際来てくださっています。ボランティア登録カードにご記載いただいて、私たちの方から、福祉マルシェや車椅子体験など、社協のイベントと一緒にお手伝いしていただいて地域の関わりとかを見ていただくという場を提供していますので、ステップアップではないのですが、ボランティア先のご案内はさせていただきます。その先は、例えば、今、思いついたのですけども、災害ボランティアミーティングがありますので、ご興味がある方であれば、今度は災害ボランティアのミーティングに参加して災害ボランティアをやってみようかなとか、あとは、今日から始まりました精神保健福祉養成講座があるんですけども、そちらにご参加いただいて精神保健福祉のボランティアやってみようかなという気持ちがあれば、社協の講座等ご案内して、それがステップアップに繋がるのかなと感じましたので、今後何かほかのことも考えていきたいと思いました。ご質問ありがとうございます。

委員長

はい、どうもありがとうございます。

小早川係長

今回、入門講座ということなのですが、以前、「初めの一步」という名称で2階のボランティアセンター活動室の丸テーブルにて行っていました。そもそものきっかけが、夏の体験ボランティアの子どもたちや大人の方でも、ボランティアってなんだろうと漠然としている方がおります。可哀想だからやってあげようとか、手伝わなきゃいけないだとか、色々な考え方がある中で、ボランティアというのはこういう考え方で行っていただきたいなという趣旨で行っていました。この入門講座も、こちらが施設などにボランティアとしてご紹介した際にボランティア先での心構えなどで問題ないよう初歩的な考え方をまずは学びましょうという狙いで今回開催しております。来年度以降も年4回を計画していますが、開催していく中で何か新しいものが見えてきたら、山路委員長がおっしゃったように、また別の展開もできたらいいなと思っております。

委員長

はい、どうもありがとうございました。他にいかがでございましょうか？はい、どうぞ。森田委員、どうぞ。

森田委員

はい、森田です。夏の体験ボランティアの報告会に参加させていただきました。やっぱり、子どもたちの体験の報告とか、その頃からボランティアに参加するっていうことを積み上げていくっていうのが大人になった時のボランティア活動につながっていくんだなあということを毎回受け入れの施設として実感しています。だいたいどこにも、あ、君また会ったね、っていう子が何人かはいて、やっぱりその子たちにとっては参加して、そこで、あ、また会ったねっていう、それ自体がすごく嬉しいんだなあということを感じていますので、できるだけ多くの2回目会った子どもたちの名前とか顔とか学校は覚えていて、そんな風に声をかけていきたいなと思いました。

ワークショップも、中の内容もとても良かったと思います。あれで色々なことのワークもやったことで、そのグループの中での発言しやすさっていうのも生まれてきて、とても良い会だったなと思いました。以上です。

委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでございましょうか？よろしいでしょうか？とりあえずはこの件に関しては、これに対する質疑は終了します。

議題2 市民協働支援センター準備室の活動状況等について

委員長は、次に、議題2 市民協働支援センター準備室の状況等について事務局に説明を求めた。

委員長

議題2に移らせていただきます。市民協働支援センター準備室の活動状況について事務局よりお願いいたします。

センター準備室

準備室の北脇です。よろしく申し上げます。準備室は、平成20年2月策定の小金市協働推進基本方針に基づいて、市民活動団体と行政、また、市民活動団体間の協働に関してご覧の7業務を行っています。これらの業務について、令和7年6月末までは前回の運営委員会で報告させていただきましたので、本

日は7月から11月分を中心に報告させていただきます。

まず3番、活動内容のトピックス。こちら7月から11月まで書いてあります。いくつかこちらの方で紹介させていただこうと思います。

まず7月、「活動の範囲の拡大」。こちらはですね、朗読と音楽をやっているボランティア団体さんで、高齢化に伴い代表交代で若い方になっておりました。この団体さんが今まで他市で活動されてたのですが、やはり自分たちが住んでいるし小金井市で活動したい、どんなところ行けるかな、ということで、ボランティア先ですとか、活動の幅を広げるための相談に来られていました。うまく仲介もできまして、今では月1回以上のボランティアを定期的にやっております。この方たちとても気持ちいい方たちなんですが、紹介してくれてありがたいを毎回言ってくださって、窓口で報告もしに来てくださっている、楽しみながら活動している方たち、そんな団体さんのお手伝いができてとても嬉しく思っております。

8月、団体紹介の書類作成について。こちらは、学芸大の学生さんたちが作った団体になりまして、子育て支援をしています。学生さんということもありまして、書類の書き方に不安を感じるということでした。活動資金として助成金、外部の団体の助成金を取りたいんだけど、こういった形で大丈夫かということで、書類を見て欲しいという相談があります。団体さんの活動内容や良いところは、内部の方からは余り気づかないこともあるようなので、外部の私たちのお話を聞くことによって気づきになったり、そういった見方もあるのかということに繋がったりしていて、こういったご相談にまめに来られております。

同じく8月の不登校時の居場所一覧、こちらの作成について。こちらは現在も継続支援中の団体さんになります。行きしぶりですとか、不登校ですとか、そういったお子さんが集まる遊び場みたいなものを作っている団体さんなのですが、お子さんが楽しむことはもちろんなのですが、お母様たちが来られた時に、いろんなお話をされて、やはり不安を感じている、学校に行かせた方が良いのかなとか、子どもと喧嘩しちゃったんだけどとか、そういったお話があります。そういった時に自分一人の力だとやはり解決できる場所も少なくなくて、いろんな団体さんがいるのでその時にその人に合った場所を紹介したい、そのためのリーフレットのようなものを作って、お話した時にすべて伝えることはできないのでそのリーフレットも渡して後でおうちに帰って今日のお話を思い出した時に、あ、そういえば、こんなところもあった、あんなところもあったなと教えてくれたな、みたいに繋がるようなそんな一覧表を作りたいという相談でした。こちら、やはり大きなお話になりますので、すぐに作るというわけではないのですが、まずはどんな形でできるか、どんな団体さんとやるのか、あとは資金をどうするのか、そういったことを今話している段階ですが、やは

りこういったもの必要だということを感じながら課題として受け取っております。

9月の方になります。「新規団体のイベント開催」。こちらはですね、障害者支援をしている法人の方です。営利法人になるのものは、本来でしたら準備室の方で相談の方は受けないのですが、それとは切り離して気持ちのある職員の方を集めて非営利で活動をしたいということでした。その時の団体名ですね、営利活動の方と繋がらないようにですとか、あと、その法人の非営利活動ということが分かるようにするですとか、あとは、自分たちの利用者さんが遊びに来るだけではなくて、色々な人に知ってもらい、参加してもらって、そんな風にしたいたんだということなので、広報の拡散ですとか、あとは仲介ですね、そういったことをさせていただきました。

10月に移ります。10月、「講演会の保育と団体仲介」というのがあります。こちらは、立ち上げの方からずっと相談に乗っていた団体さんです。初めての講演会でとても不安でどうしたらいいかわからない、保育について、まず用意しなきゃいけないのか、それともしなくてもいいのかと、あとお母さんたちの団体なので自分たちの子どもはどうするんだ、ということで、講演会が近づいて分かった問題点。今まで考えてなかったことが浮かび上がってきて、それについての相談に来られました。私の方ではこうしたらいいですよということと言わないようにしております。ほかの団体さんは、こんなことやってたよ、あんなことやってたよ、あなたたちはどうしたいっていうふうな形でお話するようにしています。最終的には、ボランティアでやってくださるような団体さんがおりましたので、その方に助っ人として入っていただきまして無事講演会も終了いたしました。

11月の相談になります。車椅子の街歩きイベント。こちらについては、車椅子の方がおまして、途中から車椅子ユーザーになった方です。本人が当時は生きる希望も失くしてしまつてとても落ち込んでしまつたと、今は生きていこう、自分にできることは何かということで、まずはそういった障害の団体を立ち上げて一緒に仲間と自分たちにできることは何かを探していきたい、何かやりたいという相談でした。この方はですね、何か思いつくたびに相談に来ておまして、実はもうすでにいくつかイベントだったり仲介だったりとかをしております。今では東京都の方でも繋がっている車椅子の団体さんの中に入りまして、とても大きなイベントをやろうと意気込んでおまして、小金井公園に繋がったりとか、街歩きの団体さんに繋がったりとか、そういった段階に入っております。活動内容の主な紹介については、以上になります。

次のページになります。1、「相談・コーディネート業務」ですね。こちら4月から11月までの相談実数で載っております。合計で135件ということで

す。1件の相談につき3回か4回のやり取りがあっても内容的に変化がなければ1件としてカウントさせていただいております。(1)の「連絡手段」、こちらのところ、窓口なのか、電話なのか、ファックスなのか、Eメールなのか、ということで一応分類分けしているのですが、ファックスの方は今年もゼロ件になっています。ただ、前回の時もお質問あったように、ファックス全く使ってないわけではなくて、相談では使うことは少ないですが、やりますよ、チラシを送りますねとか、あとは団体登録の登録用紙を送りますというファックスとかを使う方もいらっしゃいますので。この相談コーディネート業務ではあまり使わないということをご理解いただければと思っております。案件に含まれる内容ですね、こちら相談件数とも連動しているのですが、やはり4月、5月、6月はとても相談が多いです。年度が変わってやる気に満ち溢れた団体さんたちがこんなことしたいんだけどどう思うとか、同じようなことをしている団体さんありますかみたいなことを聞いてこられることが多いです。ある程度助成金とかも獲得し、その後、夏の暑い時をちょっと控えめにして、9月、10月、11月がイベントラッシュになります。そこではイベントをしていますので、相談に来るよりかは、自分たちが動くので精一杯なので相談は減るのかなと。ただ、相談に来る団体さんとしては、先ほどの保育の相談だったように、実際に動こうと思ったら、どうやったらいいか分からなかったから相談に来たよということで、漠然な相談ではなく具体的な相談ということで、1回の相談内容も重く、やり取りも増えているような状況です。

次のページに行きます。「情報の収集」ですね。4月から11月で書いてありまして、市民活動団体への訪問活動。こちら7月、8月、9月と行っております。小さなものは普段から行くことがあるのですが、1時間ぐらい滞在したものに関して書くようにしています。7月は、おやつ子ども食堂の方に行きました。こちらの団体さんは、立ち上げの時から相談に乗っているところで、数ヶ月して軌道に乗ったところで、また相談等とかありませんかとか、実際にやってみてどんなですか、という話で一度来てくださいということだったのでお伺いしてお話を聞きました。

8月、2カ所行っております。ひとつだけ紹介しますと、子ども支援の方の団体さんの連携の形を見るために行きました。9月にも1カ所行っております。

3番、「情報の発信」。こちらは、「ぼらんていあこがねい」に準備室専用のページを設けております。皆様のお手元にあると思います。こちらは、窓口で相談がありそうなもの、過去にあったものを中心に載せるように意識をしております。やはり資金の相談が多いので資金の助成金の話、あとはチラシの作り方とか、団体の人の集め方などの相談がありますので、そういった講座が東ボラさんから来た時にその情報を載せるようにしています。

下の方行きまして、「市民協働推進」のところですね。(1) コミュニティ文化課とのミーティング。電話やメールもしくは直接顔を合わせながらコミュニティ文化課さんと打ち合わせをさせていただいております。情報も共有しつつ協働の推進に努めています。本年度もNPO法人連絡会、福祉NPO法人連絡会も参加しながら、こういったこところの協働も進めながら参加しております。

「市民活動団体リストの管理」になります。こちら、今年は年2回更新をさせていただきました。この更新のところ、削除する団体ですとか、内容を変更する団体など反映するようにしています。紙ベースのものは、数年前に出した以降発行してないのですが、ウェブ上で更新しております、コミュニティ文化課さんにお手伝いいただきながら市のホームページの方に載せさせていただいております。こちらの方で検索して、紙ベースではなく、ウェブで見させていただくようにご案内をさせていただいております。

ページめぐりまして、次のページになります。7月、講習会研修ですね、こちらの方ちょっと今年度は少ないなと思っております。去年たくさん参加したのと、あと1月にも参加するものがありますので、その時にはこちらに記載させていただきます。

8、「その他」。こちらは、情報提供になります。子ども食堂連絡会のメーリングリストに、こちらは助成金の内容と活動運営についてのご紹介の連絡みたいなものが多く載っております。子育て・子育て支援団体のメーリングリストへの情報提供。こちらは欲しいと思われるような内容を見つけた時に共有するようにしております。

以上になりまして、これで本年度11月までの活動報告を終わります。

委員長

はい、ありがとうございました。只今、市民協働支援センター準備室の活動状況について報告をいただきました。何かこれについて、ご質問ご意見があればいただきたいと思っております。はい、どうぞ森田さん。

森田委員

ありがとうございます。「活動の内容」8月の「不登校児の居場所一覧、作成について」ですが、学校やスクールソーシャルワーカーと何かこうやり取りとか、そういったことは行っているのでしょうか？

センター準備室

ありがとうございます。実はですね、学校以外の居場所を紹介したいということで、まずは自分たちの非営利の市民活動としてやっているところだけ載

せたいということなので、お話を進めています。ただ、こちらの方はそれだけでは良くないなと思っていますので、ある程度リストができたところでスクールソーシャルワーカーですとか、学校の別室ですね、そういったものも載せていったらどうですかと提案しようと思っています。

森田委員

というのは、うちも、今日も1件あったんですけども、やはり、不登校児の親御さんからの相談等はとても多いですね。それはうち業務外なんですけど、そのような相談があったら、うちは寄合所としても開放しているからいいですよと言って受け入れています。スクールソーシャルワーカーにも必ず、うちの名前を出す時、あるいは連絡するときには、まず一報くださいというふうにはお願いはしているんですけども、なかなかそうはいかないんで、後で、後からってということで、直接親御さんから来るっていうことがとても多いので、もしこういった一覧ができた時にはそれを見ながら、どこか1カ所は、ケースを追っていくというのではなくて、色々な機関と協働をしていくためにもまずいろんなところと連携しながら作成作りを進めていただきたいなというふうに思います。以上です。

センター準備室

ありがとうございます。不登校の子どもたちや、行きしぶりの子どもたちで難しいと思うのは、市民活動されている団体さんたちの中には、もう学校行かなくていいよね、今は学校がすべてじゃないよ、っていう流れもあり、そういう団体は学校とのつながり以外の情報をまとめたいという思いもあるようなんですね。なので、その活動者さんの思いとか気持ちによっても一覧表にどんな情報を載せるかの形が変わってしまうんです。やはりどんな団体さんがどういう思いで作るのか、そこの意識共有から始めないと出来たチラシが活用されないんで、今はそこを丁寧に進めるため時間をかけています。

委員長

これに関連してでも結構ですし、他にいかがでしょうか？よろしいでしょうか？とりあえずはこの件に関して特にならなければ、市民協働支援センター準備室の今後の動向について、コミュニティ文化課の中川委員よりお願いしたいと思います。突然申し訳ないですが、よろしく願いいたします。

中川委員

コミュニティ文化課の中川です。よろしく申し上げます。今、北脇さんの方

から準備室の活動についていっぱいご説明いただきました。私も、毎回、前回はちょっと出席できなかったんですけど、毎回こちらの委員会に出席させていただいて、準備室の状況とかも色々ご説明いただいて、色々なことをやっているなっていうのを確認しているところなんです。この市民協働支援センター準備室は、北脇さんの説明にもあったように、平成20年に市で基本方針ができたことを受け、21年度から社協さんをお願いしている。準備室という名称から想像されると思うのですが、これは元々センターとして運営することを目標に、今の段階では準備室という形でやりましょうということで始めて、早、十数年経っているという状況です。このセンターの準備室が、社協さんをお願いした時にはそれこそ庁舎が建つかもかもしれないということで、市民協働支援センターは庁舎1階の本当に市民の方がいっぱい訪ねて来ていただける地域の拠点核として庁舎内にのせたいねっていうのが、実は平成25年ぐらいにできた市の庁舎の計画内で定められた方針でした。そこからちょっと時間が経ってしまっておるんですけども、ちょっともうさすがに時間が経っているので、ちょっとここで1回ちゃんとセンターとして立ち上げをもう一度頑張ろうというふうにちょっと我々思っております、この平成7年、令和7年のですね、もうあと少し残すところなんです、令和7年度の残り令和8年度の上半期の2カ年をちょっと使いまして協働支援センターの再検討委員会をコミュニティ文化課で開催いたします。1月から実際の検討に入る予定となっております。平成24年にですね、準備室できて以来、平成24年に市民協働のあり方検討委員会というのが実は1回立ち上がっております、そこで非常に検討重ねて答申というものを作成しておりました。その時に山路先生も加わっていただいて作ったのが24年の答申だった。そこからやはり時間が経ってしまって、もうコロナも経て、社会情勢もかなり変わってきているということから、この度ちょっともう一度見直ししてセンターに必要な機能って何だろうなというのもしっかり確認してからセンターの準備というより、もう準備室あるので、センターとして立ち上げ直したいというふうに考えているところです。なので、例えばですね、社協のボラセンの方がやっていたらしゃる内容とこれからやっていきたいと思ってるセンターの活動内容で非常に重複するところも出てくると思うので、再検討委員会には社協さんも加わっていただいて、お互い協力できる場所はどこだろうとか、ここは機能がかぶっているけどどうやって住み分けようとか、そういった具体的な内容についても再検討委員会内で整理したいなという風に考えているところになります。皆様のいろんなご協力いただけたらと思います。よろしくお願ひします。

委員長

はい、ありがとうございました。今の中川委員の報告について何か、この点についてご質問なりご意見があればいただきたいのですが、いかがでございましょうか？令和9年度からもう準備室が取れてセンターそのものが立ち上がるという風に理解してよろしいでしょうか。

中川委員

今のところその予定でやっております。

委員長

庁舎が建つ前に、ってことですね。

中川委員

センターはセンターで立てるという意気込みでございます。

委員長

分かりました。今、中川委員に言われたことで思い出したんですけど、もう本当に何年か前に、協働支援センターの準備室、名称を忘れてしまったけれども、検討委員会というのを作りましてですね、市役所の全課をヒアリングをさせていただいて、その頃は割と張り切って、私と東ボラの安藤雄太さんと、なんとですね、そのもう一人のメンバーに今の市長さんも某民間会社の一人として加わっておられてですね、それで答申案をその当時まとめたことがあって、もう忘れておりましたけど、あれがどうなったのかと思ってましたら、今、中川委員の言われたように、それを活かしてかどうかはわかりませんが、仕切り直して作られているのでより心強く思いました。ぜひ立ち上げて中身のあるセンターを作っていただきたいと思います。よろしいでしょうか、この件に関しては？

議題3 令和8年度事業計画(案)について

委員長は、議題3 令和8年度事業計画案について事務局に説明を求めた。

委員長

それではですね、議題3 令和8年度事業計画(案)について、に入ります。事務局をお願いいたします。

事務局

はい。事務局です。それでは令和8年度の小金井ボランティア・市民活

動センターの事業計画（案）についてご説明させていただきたいと思えます。先ほどの準備室の報告の次のページのところになります。令和8年度の基本方針に關しましては昨年度とほとんど変わらないのですが、先ほど中川委員よりご説明いただきました（2）の市民協働支援センターとの役割整理と行政との協議、というところで、2段落目の令和9年度に市民協働支援センターが開設される予定を踏まえまして、ボランティアセンターと協働支援センターの役割が重ならないように業務内容の整理と役割分担の明確化を進める必要があるというところで書かせていただきました。こちらが1点目の変更点で、2つ目が（4）、こちら新しく付けさせていただきます、災害に強い街づくりの推進を追加させていただきました。実際に災害が発生した時に地域の暮らしを守って支えていくためには日頃からの備えと人と人との繋がりが大切だと思っております。市民活動団体やボランティア、市民の皆さんと協力しながら災害に強い街づくりを進めたいと思っております。そのために防災に関する学びの機会や講座の開催、災害時に活動できるボランティアの育成や支援体制の確認などに取り組んでまいりたいと思っております。基本方針は以上になりまして、次のページに移っていただければと思えます。

事業が豊富にありますので、変更点のみ説明いたします。まず最初の1、中間支援事業に関する計画ですが、こちらは特に変わっておりません。（1）センターの運営に対する相談及び支援、こちらも特に特段変わっておりません。今年も（2）の活動に対する相談及び支援、のところで、「さくらファンド」の実施や団体交流会の実施、子ども・若者支援の講座の実施、なども継続して行ってまいります。次のページ、（3）のボランティア保険・行事保険の取り扱いも特段変わっておりません。（4）の広報啓発活動ですが、①のぼらんていあこがねいの発行に関しては特段変わっておりません。

その次、②のITによる情報の発信、というところで、こちらセンターに來所することなくボランティアの活動に関する情報をITを使って提供することによりボランティア活動への関心を深めて、参加へのきっかけを作ることとを目的としています。次のページに【内容】のところを書かせていただきまして、こちら前回、松嶋委員よりご指摘をいただきましたXやインスタの活用をもっとしてはどうかというようなご質問いただきまして、検討をいたしまして、令和6年度の9月より社協全体でホームページの検討委員会というものを設立致しまして、そちらで社協のホームページや各種SNSの活用を検討をしています。そのため、ボラセンや準備室だけでSNSを始めてしまうと、社協全体でのSNSの活用にはならないと考えて今年度はホームページ検討委員会で、ホームページ、SNSの活用について

検討してまいります。

その下の③の、夏のボランティア体験は変わっておりません。

その下の④の、発達障害啓発事業ですが、こちらは、先ほど進捗のところでも説明させていただいた通り、ディスレクシア啓発講座に代わる事業になっております。発達障害への理解を深めて、子どもたちが安心して成長できる環境づくりを目指します。保護者や支援者が子どもの特性に応じた関わり方や実践に役立つ知識を学んで子どもたちへの支援に繋げていきますと目的に書かせていただきまして、ディスレクシアと同様、発達障害の基本的な特性や子どもたちへの関わり方を学ぶ講座を実施していく予定になっております。

⑤のこがねい福祉マルシェは特段変わっておりません。

その次のページ、(5) ボランティアの育成ですが、①のボランティア入門講座は、先ほどご説明させてもらった通り、年4回開催する予定になっております。そして②③の精神保健福祉ボランティア養成講座、療法的音楽ボランティア養成講座、こちらも来年度も変わらず実施いたします、

(6) の、市民協働支援センター準備室、のところも特段内容は変わっておりません。

次のページ、2の、地域福祉活動推進事業に関する計画ですが、こちらでも特段変わっておりません。(1)、(2)、(3)と特段変わってはおりません。(2)福祉教育の推進ですが、毎年、小中学校さんから車椅子体験の依頼があった時に我々職員が学校に出向いて車椅子の使い方を指導させていただくというような形で進めておりましたが、本年度からYouTubeの方です、車椅子の使い方に関する動画を拝借することができまして、そちらを学校の方に提供し、学校の先生が使い方を学んでいただいて、それを児童の皆さんに教えていただくという形で今年度は進めておりまして、来年度もその予定になっております。

では続きまして、その下の3 大規模災害対策に関する計画、のところなのですが、こちらでも特段やることは変わらずで、災害ボランティアセンターの運営に関する訓練及び研修というところで、災害ボランティアセンターの設置・運営のための準備を行っています。

最後②の、災害ボランティアミーティングの開催、防災に関するネットワークの構築、というところで、こちらでも例年と変わらず、市内の災害のイベントなどに参加させていただき、また社協の方で災害の講座の方も開催し、ネットワーク作りを進めていきたいと思っております。

そしてこちらの災害のところですが、先ほど進捗の状況でさらっと流してしまいましたが、松風会さんの方で防災の街歩きをさせていただきま

したと報告いたしました。川畑副委員長の所属されている町会さんの街歩きになりますので、よろしければ川畑委員から一言こちらいただいてもよろしいでしょうか。

副委員長

川畑です。実はうちの松風会、松風防災会の方では毎年、防災訓練をしております。主に消防署のはしご車ですとか、煙体験、あと色々な災害時に怪我したときの応急処置の仕方とか、そういうことしてきたのですが、そればかりではちょっと参加者も少ないし、やっぱり一番基本の自分たちが住んでいる所を知るの大事だろうということで、今年ちょっと社協さんをお願いしまして街歩きをすることにいたしました。どれぐらい参加者があるかっていうのを全く分からなかったのですが、およそ30人から40人ぐらい集まってくればいいなと思いましたが、ちょうどそれぐらいの人数になりまして、グループを2つに分けて、町会全体ですとちょっとかなり時間がかかりますので、前もって社協の久保田さんですとか担当者の方が効率的に回ってどういうところをチェックすればいいかっていうのを準備していただきましたので、最初に集まっていた方にそれをレクチャーをしていただきながら、どこをどういう風に見ればいいかっていうのを説明していただきながら、自分の地元にある防災倉庫、何が入っているか分からない、防災倉庫がまずあるかどうか分からないという方も結構いらっしゃいましたので、それを見た後、またホールに戻ってまいりまして、色々参加されたお子さんを、ちょっと少なかったんですが、お子さんを含め、色々な方たちの感じたこと、初めて分かったこととかいうのを書き出していただき、皆さんとお話をさせていただきました。参加された方からは、分かっているようで意外と分からなかったと、改めて自分たちが住んでいるところはこういうところなんだというところを見直すっていうんでしょうかね、そういうところができたっていうので参加された方々からはとても良い感想いただきました。防災については色々なことができると思うのですが、なかなか、私どもの会も高齢化しております、思い切ったことってできなかったんですけど、今回ちょっと一歩踏み出して、自分の地元を知るっていうことの大切さを知っていただいたのが良かったかなと思っております。

社協の皆さんには本当にお手伝いいただきましてありがとうございました。ファシリテーターで防災の方をしてらっしゃる方も当日参加していただき、こういう風に街歩きをするってことが良いことですねっていうお話をいただきましたので良かったと思います。ありがとうございました。

委員長

ありがとうございました。

事務局

はい、ありがとうございます。計画の方は以上になります。ありがとうございました。

委員長

只今の令和8年度事業計画案について何かご質問ご意見があればいただきたいのですが、いかがでございましょうか？はい、どうぞ。

森田委員

はい、ありがとうございます。先ほど車椅子の使用についてYouTubeでというところで気になったのが、そのYouTube動画見たことないので、どのような説明をしているのかわからないんですけれども、そのハードの部分での説明というものはそれで行われるかもしれないけど、そのソフトの面ですよね、そこをどういう風に説明しているのか、どういう風に伝えていくのかがとても気になるところです。以前、パリオリンピックで車椅子ユーザーの方が実際にパリに行って、車椅子で街を歩くということのレポートを新聞で掲載されていたんですけども、東京オリンピックの時は東京でずいぶん色々なところが使いやすくなって改修されたり、エレベーターができたり等々あったけれども、それに比べてパリオリンピックの時には石畳がそのままだったり特に車椅子に配慮した街並みはなかったけれども、パリでの車椅子での生活は全く不自由を感じなかった、東京ではすごく不自由を感じた、それは何なのか、その違いはどうしてなのかっていうところを伝えていっていただけたらと思います。はい、以上です。

事務局

はい、ありがとうございます。車椅子の使い方に関してはYouTubeの方でご説明させて、というか理解していただけたかなと思います。ソフト面に関しては、なかなか、そこまでの・・・。

委員長

久保田さん、それはちょっと難しすぎるわ、その質問。小早川さんなり・・・。
あ、どうぞ。

事務局

森田委員、ありがとうございました。1回目でもそのようなご指摘いただいたように感じたので、私達なりに勉強しています。岡山県社協さんで、福祉教育とは、という冊子を新しく作りましたという新聞記事がありましたので岡山県社協さんにご連絡して冊子をいただき、今、勉強しているところです。そこに書いてあったのは、どこの社協さんも、学校から一方的に去年と同じで、という依頼が来てしまうと。だけど、先生たちはどういうことを伝えたいのか、私たち社協はどういうことを伝えたいのかというのを、電話1本の依頼だけじゃなくて、ちゃんと膝を突き合わせて話をするところからやってみましょうと1ページ目に書いてあったので少しずつできることをやるつもりです。先生から、何月何日、車椅子貸してくださいという電話が1本目入るので、まず先生に、どのようなプログラムを総合の時間で取って、何週間かけてどのような授業をされるんですかという質問をすると、実は2週間前に子ども達にこういうことをやって、その後ここに連れてって、小金井の中には特別支援学校もありますので、そことこういう交流をして、その後、車椅子を子どもたちに実際使ってもらいたくて社協さんにそこだけお願いしたんですという流れを教えてくださいます。ではそういう流れでしたら、社協からこういう提案もできるかな、というように、先生とまずは福祉教育についてお考えを伺うところから進めていこうと思っておりますので、今後とも色々ご教示よろしくお願いいたします。以上です。

委員長

はい、ありがとうございました。森田委員、そういうことでよろしいでしょうか。本当にこれは難しいというか、やっぱり社協全体、地域の住民全体が街づくりとして考えていくことだろうと思います。

あとは何か他にご意見、ご質問ございますでしょうか？はい、どうぞ。

榎本委員

はい、東京ボランティア市民活動センターの榎本です。社協に聞くのか、行政の方に聞くのかわからないですが、この準備室の再検討委員会が来年度とかは動かれると思うんですが、その内容を、こんな状況なんですっていうのをこちらのボラセンの方の運営委員会でも共有されていくものなのでしょうか？というところと、もし例えば、その共有の中で、ここの委員の皆さんから何かご意見があった場合は、それをまたそちらの再検討委員

会にも持ち帰っていただけるような形になるのでしょうか、というところをお伺いしたいなと思いました。

委員長

はい、中川委員、どうぞ。

中川委員

はい、コミュニティ文化課長です。東ボラからですね、まだ内諾なんですけど、はい、来ていただけるということになっております。こちらの運営委員会の内容は逐次報告させていただきたいですし、ぜひ皆さんからいっぱいご意見いただきたいなと思っているので、むしろたくさんの意見をいただけたらなと思っております。例えば、こういう場でいただくのも良いですけど、それこそこちらから、なんでしょう、一言いただけますかみたいな形で皆さんのご意見集めさせていただく方がいきなりこの場でしゃべってくれとかよりは良いかなとか、そんなことを考えておまして。今回の再検討委員会は、とにかくいっぱい色々な人の意見をいっぱい集めたいというのが趣旨になっておりますので、はい、皆さんにご協力お願いすることがあるかなと思っているところです。以上です。

委員長

よろしいでしょうか？それでは他に何かございますでしょうか？はい、どうぞ。

竹村委員

はい、すみません、細かなところすみません。IT 情報発信のところで、社協のそのホームページ検討委員会のところでも話題になっていればいいなと思うんですけども、ちょっとたまたま今、気付いたのですが、ボラセンのホームページと、あと協働準備室のブログもそうなんですけど、ボラセンのホームページって HTTP://で、それ SSL っていう今そのセキュリティのところはまだ未対応で、結構これが情報開示とか会議録とか漏洩のリスクがあって、今はもうすでに S ついてないホームページは本当に数少ないとか、早めに対応しないとちょっといけないところかなと思いますので、ちょっとそのあたりは、多分、ホームページの方が多分その年間 2 万かその位で対応できるかなと思いますので、ちょっとこのあたりも早急に対応した方がそのあたりのリスクヘッジになるんじゃないかなというふうに思いました。

ブログも多分、ライブとブログなので、ちょっとと言われると変わっちゃうリスクあるかと思うんですけど、多分こっちはお金かからないで対応できると思うので。せっかく情報発信していくに当たっては、多分、今このご時世になので多分セキュリティ対策は真剣に考えていかないと、っていうのはあると思いますのでご検討いただければと思います。以上です。

事務局

はい、ありがとうございます。ボラセンのホームページがもう何十年と前のものになるので、そうですね、セキュリティのところはなかなか気づかなかった点でしたので、はい、対策していきたいと思います。

委員長

他にいかがでございましょうか？よろしいでしょうか？

議題4 その他

委員長は、議題4 その他について事務局に説明を求めた。

委員長

それでは、議題4のその他に入らせてきます。何かございますでしょうか、事務局の方から？

事務局

先ほど、資料の確認のところでご紹介させていただきました、こちらの、ボランティア相談報告 令和7年度、というところをご覧いただければと思います。こちらなんです、前回の7月の運営委員会から12月の11日付までの相談記録になっております。小さなボランティアの相談から寄付のご相談までさまざまな相談をいただきまして、こちら一覧にさせていただいております。こちらもご参考までに目を通していただければと思います。こちら後ほど回収いたしますので、ご質問等あればお受けいたしますので、よろしく願いいたします。

委員長

全部、固有名詞が入っていますね、確かに。何かこれについてご質問、ご意見ございますか？随分こまごました、犬の散歩まで相談あるっていうのはビックリしますね。いや、これに対応するだけでも大変ですね。よろしいでしょうか、この件に関しては？

それではですね、他に何かご意見、ご質問があればいただきたいのですが。はい、事務局どうぞ。

事務局

先ほど、榎本委員の方からチラシをご提供いただきまして、そちらのご説明をいただいてもよろしいでしょうか？

委員長

榎本委員、お願いいたします。

榎本委員

はい、すみません、東京ボランティア市民活動センターの榎本です。先ほど「ボランタリーフォーラム」と「家族介護を考えるつどい」のチラシを配布させていただきました。ボランタリーフォーラムっていうのはですね、実行委員会形式で、毎年、東京ボランティア市民活動センターで開催しているちょっと大きなイベントになっております。分科会という形で、委員さんがそれぞれ企画したものがあまして、中にはフィールドワークという形でちょっと街歩きに近いような形で現地に見に行くような企画やハイブリットでオンラインで参加できるような企画もありますので、それぞれ皆さん活動分野あると思いますので、そういった分野のところですねぜひ来ていただけると嬉しいなと思っております。こちらが2月の7日、8日、2日間です。このパンフレットさっき届いたばかりなので、まだ誰も持ってないやつ、そうです。そうです。明日から申し込みフォーム、オープンの予定なのでぜひ今日ですね、これ行こうかなっていうのを見つけていただいて、明日の夕方ぐらいから申し込みができるようになりますのでぜひ見ていただけると嬉しいなと思えます。

この後も2月7日、8日のイベントも続きで、2月11日もまた別のイベントがありまして、こちら「家族介護を考えるつどい」というものになります。ボランタリーフォーラムは有料なんですけれども、「家族介護を考えるつどい」は無料の企画になっております。家族間の、基調公演のところ家族間のっていうところで、介護殺人だったりとか、そういったところの加害者家族の視点から事例を交えてお話しいただける方にお話いただくっていう形になっていますので、これは家族介護をしている方だけじゃなくって、それを支援されている方だったりとか、今、関わってなくても、このテーマ、ちょっと興味あるなという方に来ていただける企画になっていますので、こちらでもですね事前申し込み制になっておりますのでぜひ申

し込みをお待ちしております。ありがとうございます。

委員長

はい、ありがとうございました。これは本当に切実な話ですね。という話で、今日、予定しておりました議事については一通り終わりましたけれども、何か、全体を振り返られて特にこの点について改めてご質問なりご意見がございましたら最後にいただきたいのですが、いかがでございましょうか？よろしいでしょうか？副委員長、よろしいでしょうか？

事務局（久保田）

はい、すみません、最後にもう1点だけお願いさせていただきたいものがございまして、森田委員にお願いしてもよろしいでしょうか。

森田委員

はい。こちらの「令和7年度 協働講演会」です。これは一番下にも記載してあります通り、この企画は行政、社協、NPOの3つの協働で行われています。皆、参加している行政の方も社協の方もNPOの人たちもみんな手分けをしながら、担当したり、声かけをしております。ぜひご参加くださいますようよろしくお願いいたします。以上です。

委員長

ありがとうございます。これ定員が70人って限られているんですね。

森田委員

はい、早くしないと入れないので。北脇さんがチラシのデザインをしてくださいました。

事務局

再度すみません。ご報告させていただきたいこと1点ございまして、こちらの議題に戻っていただきたいんですけども、議題3の令和8年度事業計画（案）について、というところで、毎度のことではあるんですが、こちらで計画案の方をこちらで出させていただいて、また、いただいた意見を元に第3回の運営委員会の方でまた正式に事業計画として決定させていただくような形になりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

委員長

はい、分かりました。それでは、最後の最後でよろしゅうございますか？なければ、以上をもちまして令和7年度第2回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会を終了いたします。

次回、令和7年度第3回運営委員会の日程は副委員長及び事務局と調整して改めてご連絡を申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

《閉会》

以下 余白